

## 二〇一一年度 入学試験問題

法学部A方式Ⅱ日程・国際文化学部A方式・キャリアデザイン学部A方式

## 二 限 国 語 (60分)

## 〈注意事項〉

- 一 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
- 二 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 三 マークシート解答方法については下記の注意事項を読みなさい。

## マークシート解答方法についての注意

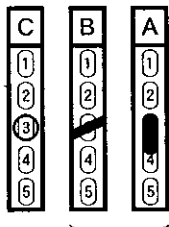
マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直  
接読み取って採点する。したがって、解答はHBの黒鉛筆で  
マークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルな  
どは使用しないこと)。

一 記入例 解答を3にマークする場合。

(一) 正しいマークの例



(二) 悪いマークの例



○でかこまないこと。

二 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。

三 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。

四 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

〔一〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

神話は危機の時代に生まれる。危機の時代に、この世界を解決する物語として、神話は形成される。それは昔も今も変わらない。新自由主義は労働組合を弾圧するにあたって、神話を創造した。それは耳ざわりのよい「市場の神話」である。

市場の神話は、市場を神として崇めることを求める。市場による分配こそが、公正な分配だからだと唱える。すべてを市場に任せれば、市場を神として崇めることを求める。公正な分配が実現すると信じさせようとするからである。

もつとも、アダム・スミスは「神の見えざる手」とは一言もいってはいない。アダム・スミスは「見えざる手」と表現しているにすぎない。しかし、そうだとしても、それは神のなせる業だと、新自由主義者は主張する。それは市場が社会に対する貢献に応じて所得を分配するからである。

新自由主義者は次のように説く。市場ではより多くの人々の欲求を充足すれば、より多くの所得が分配される。より少ない人々の欲求を充足することしかできないければ、より少ない所得しか手にすることができない。つまり、市場では社会に対する貢献に応じた所得が分配されるが故に、公正であると主張する。

ところが、貢献に応じて公正に分配されている労働市場に労働組合が圧力を加えれば、それは正義に反する。もちろん、政府が労働市場に介入して、最低賃金を設けたり、労働契約で労働者を保護したりすることも公正ではない。さらには政府が市場での所得分配に対して、社会保障や租税によって再分配すれば、公正な所得分配を歪めてしまう。新自由主義者はこのように主張する。

新自由主義者らの論理にしたがえば、弱い立場にある者を精神的に痛めつける行為で人気を獲得するテレビタレントは、多くの人々の欲求を充足しているが故に、巨万の所得を手に入れることができる。子どもたちの給食のために、黙々と食器を洗う人々は、社会に対する貢献が少ないが故に所得が少ないということになる。

市場で少ない所得しか稼ぐことのできない者は、社会に貢献する努力を怠る怠け者であると、新自由主義者は考える。市場

に介入して、そうした怠け者を救済しているからこそ、経済が活性化しない。市場に介入せずに、自由放任にすれば、<sup>3</sup>努力する者が報われる社会となる。努力する者が報われる社会こそが、公正で効率的な社会なのだ。このように新自由主義、というよりも市場原理主義は主張する。

こうした市場の公正性を強調するだけでなく、市場原理主義者はしたり顔で、次のようにも主張する。すなわち、市場原理こそが究極の民主主義なのだと唱えるのである。市場では契約自由の原則にもとづいて、誰に強制されることもなく、財・サービス<sup>4</sup>を自由に選択することができるからである。

しかし、<sup>4</sup>市場での選択は民主主義とは相反することを忘れてはならない。民主主義ではすべての社会の構成員に、同じ権利が与えられて決定する。簡単に表現すれば、一人一票の権利が与えられて、その社会の意思が決定される。

ところが、市場では社会の構成員に、同じ権利が与えられるわけではない。市場では購買力に応じて、権利の大きさが決定される。つまり、所有する貨幣量に応じて、決定権が行使されることになる。

そうになると、豊かな者が決定権を握ることになる。つまり、豊かな者が要求するような財・サービスが市場で供給されるようになる。貧しき者の生活を支えるような財・サービスは、市場では取引されることが少なくなってしまう。社会全体として、どのような財・サービスを生産するのかわ、豊かな者が決定してしまうようになる。

そうだとすれば、<sup>5</sup>市場では社会への貢献に応じて所得が分配されるという命題も、迷信であることが理解できるはずである。市場では豊かな者の欲求を充足するか否かによって、所得が決定されてしまう。購買力の少ない貧しき者の生活に必要な財・サービスを生産しても、市場では少ない所得しか分配されない。それに対して豊かな者の欲求を充足する財・サービスを生産すれば、市場では多くの所得が分配されることになる。

市場ではより多くの人々の欲求を充足したから、より多くの所得が分配されるわけではない。市場ではより大きな購買力が求める欲求を充足することで、より多くの所得が分配されるのである。

市場への信仰を迫る新自由主義の神話では、豊かな者が決定する欲求を充足することが、社会への貢献だとすり替えられて

しまう。貧しき者の生活を支えるために、額に汗して働く者は、愚かな X と断罪されてしまうのである。

市場の決定権と民主主義の決定権とは相反する。市場では購買力の豊かな者が決定権を握るのに対して、民主主義ではすべての社会の構成員が同じ決定権を握る。富者の傭兵である市場原理主義者は、「市場の神話」を布教する。それは市場では、富者が権力を握れるからである。

「市場の神話」の魔力は、自由にある。市場原理主義者は説く。人間は自己の人生を自由に生きることができると。この言葉に、良心的な市場原理主義者は、あわてて次のように付け加えるだろう。それは他者に迷惑をかけない限りにおいてである。

市場では自由が保障されている。市場での取引は、取引の当事者以外の他者に影響を与えることができない。しかも、当事者の双方に利益を与える。自己に利益がないと思えば、市場に参加しなければよい。人間が自己の利益にかかわることだけに行動することができる仕組み、それが市場なのだ。このように「市場の神話」は語り聞かせる。

フランスの数学者パスカルは、その著書『パンセ』で、「人間は自然のなかで最も脆弱な一本の葦にすぎない」と述べた上で、「しかしそれは考える葦である」と、人間の偉大さを指摘した。人間は個人の存在としては、一本の葦のように脆弱な存在である。しかし、人間には創造力がある。しかも、人間は仲間を形成して問題を解決する術を知っている。人間は仲間を形成して、厳しい自然の中で生存を維持してきた「社会的動物」なのである。

社会(society)とはラテン語の「仲間(socius)」に語源がある。人間の行為で自己にだけ関係する行為など存在しない。個人的行為に見えても、それは仲間という他者に必ず影響を与えるという社会的意義がある。

「市場の神話」を説く者は、自己利益という個人的意義だけに目を向けさせようとする。新自由主義にとつての恐怖は、人間が人間の行為の Y を考えるようになるのではないかという危惧である。人間は孤立した存在ではなく、相互に結ばれ合っているという真理に気づかれてしまうと、「市場の神話」の魔法が効力を失ってしまうからである。

「市場の神話」は人間が自己利益の最大化を追求して、競争することを求める。個人の自由と貢献度による分配を実現する市

場のもとで、個人が自己利益を求めて競争することによって、効率と公正が達成されると説くからである。

「市場の神話」では人間が他者と接触するのは、他者が自己の利益になる時だけであると信じ込ませようとする。市場における契約関係とは、まさに他者が自己の利益になると、双方が思った時に成立する。

ところが、他者の利益は自己の利益である人間が考えるようになる、「市場の神話」は成立しなくなってしまう。他者の利益が自己の利益だという原理は協力原理という「分かち合い」を支える論理である。協力原理は「仲間」の形成によって成立する。つまり、「私」の利益ではなく、「われわれ」の利益を求めるようになるからである。

「われわれ」という「仲間」が形成されると、「市場の神話」は打ち破られる。同じように努力をしているのに、ただ富者の欲求に貢献しないという理由だけで貧しさを強いられるのかと、人々から異議申し立てがなされるからである。

(神野直彦「分かち合い」の経済学』より。文章を一部改変した)

【注】 \* 新自由主義 政府等による市場経済への介入を批判し、自由競争によって経済の発展を実現しようとする思想。

\* アダム・スミス イギリスの経済学者。古典派経済学の祖。

問一 傍線部1「市場を神として崇める」とはどのような意味か。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 人間の手では不可能な所得分配の公正さを不可思議な論理で実現するものとして、市場を崇拜するということ。
- イ 社会を危機の時代から救い、万人に自由と平等をもたらす公平な救世主として、市場を信奉すること。
- ウ 全面的に帰依することで自らに大きな所得分配をもたらす存在として、市場を信仰すること。
- エ 危機の時代においてあらゆる問題を解決してくれる超越的な存在として、市場を無条件に信頼すること。
- オ 社会にどれほど貢献したかに応じて知らぬ間に公正に所得を分配するものとして、市場を信奉すること。

問二 傍線部2「貢献に応じて公正に分配されている労働市場に労働組合が圧力を加えれば、それは正義に反する」とあるが、

なぜそのように考えられるのか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 新自由主義者は、そもそも労働組合を弾圧しなければならない不公正な団体と見なしているから。
- イ 新自由主義者は、労働市場に圧力をかけることを労働組合の役割から逸脱した行為と考えるから。
- ウ 新自由主義者は、労働組合の圧力を市場原理が実現する分配の公正さを歪めるものと考ええるから。
- エ 筆者は新自由主義者の見解を肯定し、社会貢献に応じた所得分配の公正性の維持を重視するから。
- オ 筆者は、どのような権力であっても圧力をかけて分配構造を変えるのは許されないと考えるから。

問三 傍線部3「努力する者」は、ここにおいてどのような意味で用いられているか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 怠けることなく額に汗して己の仕事に励む人。
- イ 多くの人々が求めているものを提供できる人。
- ウ 人々の欲求に応えようと試行錯誤を重ねる人。
- エ 公正で効率的な社会の実現のために努める人。
- オ 経済をより活性化させるために力を尽くす人。

問四 傍線部4「市場での選択は民主主義とは相反する」とされるのはなぜか。その理由として最も適切なものを選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 所有する貨幣の量が多い者ほど大きな権利をもつ市場のしくみが、権利の平等を重要視する民主主義の理念と矛盾するため。

イ 民主主義社会は全構成員に各一票を与えるが、市場原理は個人の購買力の大小に比例して一票の重みに格差をもたらすため。

ウ 市場では人々が自由に財・サービスを選択できるために社会が競争に陥り、民主主義を機能させる余裕がなくなるため。

エ 民主主義は社会の全構成員に同じ権利を与えるのに対し、市場原理では貧しい人々に投票権が与えられなくなるため。

オ 民主主義では人々が平等な権利をもって社会の意思を決めるが、市場ではそれを市場原理主義者だけで議論するため。

問五 傍線部5「市場では社会への貢献に応じて所得が分配されるという命題」が「迷信である」とされるのはなぜか。その理由として最も適切なものを選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 社会貢献とは貧しき者の生活を支えることのはずだが、市場原理主義者の言うそれは富者の欲求の充足にすぎないから。

イ 市場原理主義者が社会貢献度に応じてなされるという所得分配は、現実には本人の豊かさの程度によって決まるから。

ウ 市場では、多くの人々の欲求を満たすよりも購買力の大きい人々の欲求を充足することで所得が多く分配されるから。

エ 多くの人々の欲求を充足することが社会貢献だとする市場原理主義者の主張は、社会貢献の語義を誤解しているから。

オ 貧しい人々も含めた社会全体への貢献に応じて所得が分配されるはずだという理念は、そもそも欺瞞ではないから。

問六 空欄 X に入る語として最も適切なものを選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 奴隷      イ 偽善者      ウ 道化      エ 怠け者      オ 傭兵

問七 空欄 Y に入る表現として最も適切な語句を本文のこの箇所より前から抜き出し、解答欄に記せ。

問八 本文後半部において、筆者は市場原理が前提とする認識の問題点を指摘している。どのような前提のどこに問題があるのか。末尾を「という点。」で結ぶかたちで、四十字以内で解答欄に記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。



二二 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

九・一―直後、激しいシヨックを受けているニューヨークの人々への街頭インタビューの一つに、学生風の男性が、「これで分かった。罪のない市民を攻撃するなんていうことは、しちゃいけないだ」と叫ぶようにマイクに向かう場面があったと聞いたとき、私は、ああどうか、そこから、その共感と理解から、アメリカに展開して行く流れが、主流か、もしくはそれに拮抗するものになりますように、と祈るような気持ちでいた。結果的には主流にもそれに準ずるものにもならなかったが、けれどこの系統の流れは確実にアメリカのどこかを流れ、そしてそれはだんだん大きな流れになっていつている(と、念を込めるように言い切ってしまう)。

起こっていることは、今、この私の、「近きより」であり、「くるり」であり、それを遠く過去に見やつての、ちようかんず鳥瞰的な視野を持つことができない。それでも『暗黒日記』や『近きより』などのような、戦時下の記録を読んでいると、繰り返す「同じようなこと」の意味を問いたくなる。その中にいやになるほど出てくる、本質を外れたヒステリックな世間の小兒的糾弾①――「あなたをやっていることは、みんなの迷惑です、つまりあなたは非国民だ」的な、とうにあの時代に埋葬したはずの、その地の底から繰り返し湧き起こってくる、この発作のような民族的な痙攣は、一体どういう意味を持つのだろうか――それとも、この痙攣でまとまりのつく、そのものを、民族と呼ぶのだろうか。

小林秀雄の『二ツの脳髓』の中で、主人公が、船に乗っていて、他の客と同じように自分の体も揺れる。それがどうにも我慢ならないのだけれど、どうしてもそこから逃げる方法が見つからない、というようなところがあったのを思い出す。

民族が痙攣を起こしたら、その波動に巻き込まれずにはいられない。自分だけがそこから自由でいられるはずがない。

イザベル・フォンセーカ著『立つたまま埋めてくれ』(副題「ジプシーの旅と暮らし」)という本は、現在主にロマと呼ばれる、千年以上昔から放浪生活が続け、戦後ヨーロッパ各地で定住生活を強いられながら暮らす、約千二百万人のヨーロッパ最大の少数民族について、その迫害の歴史や彼ら自身のアイデンティティについて、実に誠実に詳細に綴ったルポルタージュで

ある。彼らの大部分は、自らのルーツについて何も知らないし、知ろうともしない。「自分たちは世界の外にいる」というのが、彼らの最も基本的な自己認識の一つであり、

この知らないということが、たとえ彼らがそのことをほとんど意識していなくても、彼らをとびぎり際だった存在にしていた。そして私は、これこそがジプシーというアイデンティティを示す特性だと考えるようになった。自分の出自が言えなければ、その人は誰でもなくなり、その人について誰もがどんなことでもいえるようになるからだ。(中略)おそらく起源などたいたことではなかったのだ。彼らは(中略)いつでもその辺にいる人たちでありながら、どんな場所においても、いつでも、もう一度最初からやり直さなければならなかった人たちなのだ。そして、それはいつでも、長くて過酷な旅だったのである。

彼らは定住を嫌ったが、戦後のヨーロッパ諸国は彼らを同化させようとあらゆる規制を敷いた。彼らは故郷を知らないし、土地に執着しないが、その同族意識は、並はずれた結束力と、ほとんどないに等しい個々のプライヴアシーで(一人でいたがるロマというものは病気以外には考えられないとする)、まるでそれぞれ一つの生命体が流浪を続けるようなものだ。流浪を続ける間、音楽は彼らから切つても切り離せないものだったが、定住を強いられるようになった途端、音楽には関心を持たなくなる者も出てくる。

ジプシーの歌の核にあるものは昔もいまも変わらぬノスタルジアだ。しかし、ノスタルジアといつても、いったい何をなつかしむのだろう。「ノストス」というのはギリシャ語で「故郷に帰ること」だが、ジプシーに故郷などない。たぶん彼らは民族の中でも唯一、祖国をもちたいと願わない民族なのかもしれない。

だが、ノスタルジーと言うからには、何か対象があるのだろう。しかし、この場合、もうその対象自体にはさして意味はなく、その対象をどうにかしたいという積極的な欲求もなく、ただ懐かしむ、そのことに、アグレッシヴな飢餓感の加速を和らげる鎮静作用があるのかもしれない。緩やかにまとまるのにちょうどいいくらいの、A、とても言おうか。あちこち流浪している同族を、一生相見え<sup>あじまみ</sup>ることのないかもしれない同族を、ただ心の上で一つにするぐらいの。

定住したら音楽が彼らから抜けて行き、そのノスタルジーが要らなくなる、としたら、それは興味深いことだ。

一ヶ所に長い年月定住していると、きつと人知れず澱<sup>②</sup>のように溜まってくる何かがあるのだろう。或る土地に住み着き、やがてその土地に愛着が生まれ、執着が生まれる。国を地図上の国境で囲ってしまえば、自分の住まうところのぐるりに(本当は世界中がそうなのだが!)いる人々との間に、群れ意識は自然に生まれるだろう。それが純血主義などを求め始め、その、「人知れず澱のように溜まってくる何か」が、いつか民族の痙攣を引き起こすのだとしたら、それが繰り返しパターン化しているのなら、きつとそれを解くための工夫も歴史上様々為されてきたに違いない。自分の地所を遠く離れて巡礼の旅に出たり、或いは西欧や中南米の「カーニバル」、岸和田のだんじり祭や諏訪の御柱祭などのように、ある程度の犠牲もまたやむなしと無意識裡に肯定されるような、爆発的なエネルギーの発散の場の設定、または「賢者の教え」のような生活訓、例えば「許す」「受け入れる」、そういう言葉でシンボライズされる寛容の精神もまた、強張った筋肉の緊張を解くように、この「民族の痙攣」の緩解<sup>③</sup>に、有効であったことはまちがいないだろう。そこまでは人類は数千年も前から発見しているのだが、ただ、その処方の仕方に、未だにきちんとした方法論が得られず今日まで来てしまったのだ。キリスト教を筆頭にしてあらゆる宗教がその工夫のニュアンスを伝えようとしてきたが、組織化された宗教というものの自体にある問題のために、その成果ははかばかしいものとは言えない。——それでも、ないよりはましだったとは思いたい、宗教の功罪ということだけでも、膨大な数の文学作品が生まれそうで、考えただけで一瞬目眩<sup>めま</sup>がする。自分の仕事のことを考えると、何を今更、とまたもや無力感に襲われる。

先月引越したばかりなのに、飼犬の環境への適応は早く、もう生まれてからずっとここに棲み着いているような顔をしている。庭の雑草の茂みに鼻を突っ込んだまま、気持ちよさそうに昼寝をしている。

「どうにも抜き差しがたい流離感」、その流離感が引き起こす漂泊を渴望する心と、日常が絶えず指し示す土着性に惹かれる心と、しかし、結局私はどちらの心の正しい引き受け手にもなれずに、いたずらに年月を重ねてしまった。やたらに引越すだけをし繰り返して。流離と土着。漂泊と定着。私という個人の中でも、このことはこれだけの揺らぎを呼ぶ。未だに「定着」ということに潔くなれない。けれど、その土地に根ざし、<sup>④</sup>倦まず弛まず日常を生き抜く、というのが本来私の憧れる生き方だっ

た。

齡を重ねて、否応なく生活経験というものの増してくるうち、そういう相反するような性質のもの（群れへの回帰性と個への志向性のようなもの）が実はそうではないこと、一人の人間の中にそういうものが葛藤も見せずに（ある種の心理学が、したり顔で教える「補償作用」「反動」などという、乱暴で単純な法則性のものでなく、もつと控えめで微妙なやり方で、発生と同時に恰も尊嚴を伴つてあるように）存在しうるものであること、ともかく、人間とはどうやらそういうものであること、を、幾たびとなく他人のケースでも目の当たりにし、やがて意外ですらもなくなつた頃から、私は、どうやらノスタルジーというものは、群れの境界で、個としての自分がいつか帰る場所を思つて感じるようなものではないか、そしてそれは単なる感傷以上のもの、また、理性とは違つた働きで群れの暴走を食い止め得るもの、ではないかと思うようになってきた。

群れの境界に足を引っかけ、どつちつかずの気持ちのまま、ノスタルジックな小説が書きたい、と思うようになった。

（梨木果歩『群れの境界から』より）

問一 本文ではイザベル・フォンセーカ著『立つたまま埋めてくれ』を引いてロマ（ジプシー）が論じられるが、筆者はどのような点に注目して、それをとりあげたと考えられるか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア ジプシーがほとんどないに等しいプライヴァシーしか有していないように思われる点。

イ ジプシーが「ヨーロッパ最大の少数民族」でありながら、自分たちのルーツについて関心を持っていないように思われる点。

ウ ジプシーは定住を嫌うにもかかわらず、戦後のヨーロッパ諸国によつて同化を強いられたと思われる点。

エ ジプシーが定住することなしに、民族としての緩やかなまとまりを実現しているように思われる点。

オ ジプシーが、故郷など持たないにもかかわらず「ノスタルジー」にこだわり続けているように思われる点。

問二 空欄 A に入る表現として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 確固たる純血主義
- イ 曖昧な地域主義
- ウ 消極的な民族主義
- エ 熱烈な全体主義
- オ 絶対的な孤立主義

問三 筆者が本文中で述べていることに当てはまらないものをつぎの中から一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 九・一一直後の「罪のない市民を攻撃してはならない」というコメントに対する共感と理解は、残念ながらアメリカでは主流とならなかった。
- イ ある程度の犠牲を伴う可能性のある荒々しい祭は「民族の痙攣」を和らげるための装置として一応有効に働いてきた。
- ウ 自らのルーツについて知ろうとはせずに、常に「自分たちは世界の外にいる」という自己認識をもつ方が望ましい。
- エ キリスト教などの宗教は、それ自体が組織化されているため、「民族の痙攣」の解決法としてはあまり成果を挙げている。
- オ 九・一一以降に起こっていることは、戦時下の時代とともに葬り去ったはずのヒステリックな世間の単純な糾弾を思い起こさせる。

問四 傍線部「ノスタルジックな小説が書きたい」と筆者が言うとき、「ノスタルジー」にはどのような意味が込められているか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 流浪の民に故郷を思わせ、故郷に帰りたいという強い気持ちを持たせるもの。

イ 執着する対象を持ち、その対象をどうにかしたいという積極的でアグレッシヴなもの。

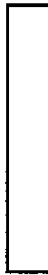
ウ 一ヶ所に長い年月定住していると、人知れず澱のように溜まってくるもの。

エ 流離感から生じる漂泊を望む心と土着性に惹かれる心の矛盾を解消しうるもの。

オ 感傷というだけでなく、「群れ」のもつアグレッシヴな飢餓感の加速を和らげうるもの。

問五 二重傍線部「民族的な痙攣」を引き起こさないために筆者自身が見出した道はどのようなものか。以下の形式にしたがって十五字以内で解答欄に記せ。

「ノスタルジックな小説」を書くことによつて、



を個人の中で両立させること。

問六 波線部①～④の語句の読みとして正しいものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。ただし、各選択肢は送り仮名も含むことがある。

① 糾弾

ア しゅうだん

イ しだん

ウ けつだん

エ きゅうだん

② 澱

ア でん

イ かす

ウ おり

エ との

③ 緩解

ア えんかい

イ かんかい

ウ ゆうかい

エ きゅうかい

④ 俺ます弛ます

ア あますゆるます

イ あますたゆます

ウ うますゆるます

エ うますたゆます

〔三〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

昔、摂津の山の中に、あやしの草庵して、尼の住むありけり。五穀を断ちて、いちひ樗の実をなん取り置きて、食物には調じける。前に池を手づつげに掘りて、それに入れ置きて、あはたかしなどしけり。

色も蒼み衰へて、よしあしも見えわかぬほどになんありける。

ある人、思はずに行きあひて、「何としてか、ここには住む」といひければ、「我、年いと盛りなりしに、夫に後れ侍りて、四十九日のわざなど果てて、その日やがてかしらおろして、この山に入りて、いまだ里に行くことなし。何となく浅からず思ひ侍りしを、はからざるに亡き者にみなして侍りしより、世の中何にかはせんと思ひて、かくなりて侍り。子もあまた侍り。田島やうのもの、数あまたありしかど、これはみな夢の中の友なればと、思ひ捨ててき」とぞいひける。心にはさまざま思ひ入れたる様なるを、さすがに言に出でて数々にはいはぬ様にぞ見えける。

高きも下れるも、女となりぬる身は、心は千草に思へどもよろづえ叶はでのみぞやむめるを、思ひとりけん心のほど、げに浅からずぞ侍るべき。

まことに、偕老同穴の契り、来ん世をひきかけて頼むるわざ、あらましなれども、罪深きことあまた聞こゆるぞかし。唐土の帝は、「空を行かば翼をならぶる鳥とならん」と契り、日本の島の女は、「野とならば鶉となりて鳴き居らん」とかこてり。あるは、「恋ひん涙の色ぞゆかしき」と思ひおき、或は、「なき床に寝ん君ぞ悲しき」とわづらへり。誠を致して甲はずは、浮かびがたくや侍らん。

つらつら思ひ続ければ、生けるほどは、いかなれば、富士の高嶺にことよせて堪へぬ思ひをあらはし、清見が関をひきかけて袖の涙を知らするに、むなしく鳥辺野の煙と上り、いたづらに浅茅が原の露と消えぬるは、いたまずしもあるらん。情け深からん人、折にふれ、時にしたがひて、悲しみを増すこと深くぞ侍るべき。

〔閑居友より〕

【注】 \*いちひ櫛の実

ドングリのような形をした実。

\*手づつげに

不器用そうに。

\*あはたかし

水に漬けること。

\*恋ひん涙の色ぞゆかしき 「夜もすがら契りしことを忘れずは恋ひん涙の色ぞゆかしき」の歌を踏まえる。

\*なき床に寝ん君ぞ悲しき 「声をだに聞かで別るる魂よりも亡き床に寝ん君ぞ悲しき」の歌を踏まえる。

\*清見が関

現在の静岡県清見寺付近にあった関所。駿河国の歌枕。

問一 傍線部 a「世の中何にかはせんと思ひて」、b「夢の中の友なれば」、c「よろづえ叶はでのみぞやむめるを」の解釈として

最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

a 世の中何にかはせんと思ひて

ア 俗世を捨てた後はどうしようかと思ひ

イ 夫婦の仲など価値がないものだと思ひ

ウ 男女の仲は忘れがたいだろうと思ひ

エ 豊かな生活は捨てるべきだろうと思ひ

オ 世の中をどう過ごしていくべきかと思ひ

b 夢の中の友なれば

ア 夢のようにむなしいこの世の道づれだから

イ 夢のような来世で望むべき幸福にあたるものならば

ウ 夢のように幸せだった過去の思い出のようなものだから

エ 夢のようなはかない想像で思い描いた願いだから

オ 夢のように消え去った夫の形見というべきものならば



c よろづえ叶はでのみぞやむめるを

ア いろいろと叶えたく思いつつ、断念することになるはずだが

イ 全部は叶えられそうもなく、最期をむかえることになるうが

ウ とかく叶えられないものだ、あきらめてしまおうだろうが

エ 結局叶えたいものはないので、そのままにしておきたいが

オ 何事も叶えることができず、命が尽きてしまうようだが

問二 傍線部1「その日やがてかしらおろして」を、「その日」がいつかを明らかにして、二十字以内で現代語訳せよ。

問三 傍線部2「来ん世をひきかけて頼むるわざ」を単語に分けた場合、その品詞の組み合わせとして正しいものを選び、解答

欄の記号をマークせよ。

ア 動詞＋助動詞＋名詞＋助詞＋動詞＋助詞＋動詞＋助動詞＋名詞

イ 動詞＋名詞＋助詞＋動詞＋助詞＋動詞＋名詞

ウ 動詞＋名詞＋助詞＋動詞＋助詞＋動詞＋助動詞＋名詞

エ 動詞＋助動詞＋名詞＋助詞＋動詞＋助詞＋動詞＋名詞

オ 動詞＋助動詞＋名詞＋助詞＋動詞＋助動詞＋助詞＋動詞＋名詞

問四 傍線部3「唐土の帝」、4「日本の島の女」の話は、なぜ「罪深きこと」の例となっているのか。その理由として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア いずれも来世で鳥となつて再会しようとする話であり、夫婦が死後も連れ添おうと約束し、鳥に生まれ変わつても逢おうとすることが執着の表れだから。

イ いずれも来世では夫婦が離ればなれになることを定めとする話であり、同じ墓に入るだけでは、夫婦の契りを貫くことにはならないから。

ウ いずれも鳥と永遠の夫婦の仲を約束する話であるが、異類と契りを交わすことは非道のおこないとして、仏法で厳しく禁じられているから。

エ いずれも自らを鳥の姿に重ね夫婦の離別を悲しむ話であるが、鳥の姿から人間の夫婦愛を思うことは、現実から目を背けている証しだから。

オ いずれも来世で鳥となることだけが唯一再会できることの話であるが、人知の及ばない来世で鳥になりたいと願うことは、分不相応だから。

問五 波線部①「富士の高嶺にことよせて堪へぬ思ひをあらはし」、②「清見が関をひきかけて袖の涙を知らする」と同様の気持ちを表した和歌として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

① 富士の高嶺にことよせて堪へぬ思ひをあらはし

ア 時知らぬ山とも見えず富士の嶺やつもればつもるこの頃の雪

イ 富士の嶺をよそにぞ聞きし今は我が思ひに燃ゆる煙なりけり

ウ 風になびく富士の煙の空にきえて行方も知らぬ我が思ひかな

エ 小夜ふけて富士の高嶺にすむ月は煙ばかりやくもりなるらん

② 清見が関をひきかけて袖の涙を知らず

ア 岸近く浪寄る松の木の間より清見が関は月ぞもりくる

イ よもすがら富士の高嶺に雲消えて清見が関に澄める月影

ウ 月影の清見が関の夏の夜は浪をかぞふるほどだにもなし

エ 胸は富士袖は清見が関なれやけぶりも波も立たぬ日ぞなき

問六 筆者は尼の生き方に対して、どのような感慨をもっていると考えられるか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 尼が夫との死別を乗り越えるため、遁世したことに感心しながらも、俗世に生き続け悲しみに浸る方が人間らしい生き方だと感じている。

イ 尼が夫の菩提を弔うため、私財を投げ打つたことを肯定しながらも、来世でまた結ばれるために静かに死を悼むほうが死者の供養となると感じている。

ウ 尼が夫の死を経て、現世のむなしさに気づいたことに共感しながらも、愛する人との死別を経験したら悲しみを抑えることは難しいと感じている。

エ 尼が夫の死をぎっつけに出家を決意したことを潔いと賞賛しながらも、たとえ俗世を離れても現世の人間関係から逃れることはできないと感じている。

オ 尼が俗世の冷たさを悟り、多くを語らず山中で暮らしていたことに同情しながらも、肉親の死に接することで人の世の大切さに気づくはずだと感じている。

問七 『閑居友』は鎌倉時代に作られた説話集であるが、同じ時代に作られた説話集をつぎの中から二つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

- |   |       |   |       |   |        |   |     |   |       |
|---|-------|---|-------|---|--------|---|-----|---|-------|
| ア | 平家物語  | イ | 今昔物語集 | ウ | とはすがたり | エ | 十訓抄 | オ | 古今著聞集 |
| カ | 日本永代蔵 | キ | 日本霊異記 | ク | 無名抄    | ケ | 閑吟集 | コ | 伊曾保物語 |

〔四〕 つぎの各問いに答えよ。

問一 つぎの文中の傍線部A～Dのカタカナを漢字に直して解答欄に記せ。

昨秋、祖母のカイキ祝<sup>A</sup>いを兼ねて、家族で奈良を訪れた。ソウゴンな仏像の数々にもカンメイ<sup>C</sup>を受けたが、私<sup>B</sup>がもっとも心打たれたのは、重いシツペイ<sup>D</sup>に悩まされていたとは思えないほど回復した祖母の姿であった。

問二 つぎの各文の空欄に入る漢字一字を解答欄に記せ。

- ア 議題を無視した発言をし、 眼視される。
- イ 次の大会では、本学のチームが優勝候補の最右 である。
- ウ 彼は記憶力がよいので備 録など必要としない。
- エ 彼の 飛車な態度が、取引相手の機嫌を損ねた。